



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2011.12

No.332

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



「赤い鳥や青い鳥や黄色い鳥が見たいんです！」

日本野鳥の会埼玉探鳥会記録データより (その3) 山口芳邦(新座市)

「私は入会したばかりのものです。赤い鳥や青い鳥や黄色い鳥が見たいんです。そのために入会しました。どこに行くと見られますか」と、今年のある探鳥会で、参加者の1人が編集部に話しかけたそうです。

実はそれらの鳥はベテランの人たちも大好きな鳥です。そこで今回、その入会間もない人の希望に応えるべく、そして他の会員の参考にもなればと考え、当会の探鳥会記録から「赤」「青」「黄」系統の羽を持った鳥たちが、どこの探鳥会で比較的多く見られるか調べてみました。言葉よりもデータで説明した方が良いのではと考え、3ページの別表にまとめてみました。2006年以降の探鳥会を対象にしました。出現率の高い探鳥会に適切な時期に参加すれば、赤、青、黄の鳥が見られる確率がきっと高くなります!!

表の見方を説明します。

● 鳥種

アカ、ヒ(緋)、ベニ、アオ、キなどから始まる鳥の名前はたくさんあります。それは必ずしも羽色でなく足の色だったりします。また、アオがついても灰色だったりするものもあります。ここでは羽に赤系統や青系統や黄系統を含むもので、出てくれるとちょっと探鳥会が盛り上がると思われるもの16種をピックアップしてみました。

背中がコバルトブルーの人気のカワセミと黄色の気品のあるキセキレイは川や池がある探鳥地では比較的容易に見られる鳥なので、誌面の都合上、対象から外しました。1990年以前はキセキレイの出現率はカワセミより高かったのですが、1990年を過ぎてからは、カワセミの出現が増加し、キセキレイは減少するという傾向が続いていて、最近の探鳥地ではカワセミの方が容易に見られる鳥になっています。

● 鳥名の下に数字

探鳥会で出現した時期です。○—△とあるのは○月から△月までの期間です。探鳥会は鳥種ごとにこの期間内のものをピックアップしています。

● 出現率

表示されている時期に行われた探鳥会に対し出現した回数のパーセンテージです。例えばアカゲラ(上写真)ですが、さいたま市岩槻文化公園では2006年以降10月から5月



の期間に計10回の探鳥会が実施されましたが、アカゲラは1回(10%)出現したということになります。戸隠高原では5月と10月に11回実施されて、毎回(100%)確認されています。

● ご注意

探鳥会の時期については、見方に若干の注意が必要です。例えばキビタキを例にとると時期は4月—10月となっています。戸隠探鳥会は5月と10月に行われています。出現率64%はこの平均です。実際には5月は毎回確認されていますが10月は1回のみです。10月の戸隠はやはりムギマキですね。

今回取り上げた16種以外にも会いたい鳥はたくさんいることでしょう。まずは皆さんの探鳥会に参加してみましょう。そして、どこの探鳥会に参加したら見たい鳥に出会えるか、リーダーに尋ねてみましょう。

(写真:編集部)



あか					あお					きいろ					
アカゲラ	アカコッコ	アカシヨウビン	オオアカゲラ	ヒレンジャク	ベニマシコ	アオゲラ	オオルリ	コルリ	ルリビタキ	キクイタダキ	ムギマキ	キビタキ	キレンジャク	マヒワ	ミヤマホオジロ
2006年以降の探鳥会で出現した時期															
10-5	4-5	5	5と10	2-4	10-4	10-5	4-5	5	12-4	10-5	10	4-10	2-3	10-5	12-3

探鳥地	上記時期内探鳥会の出現率 (%)															
	10-5	4-5	5	5と10	2-4	10-4	10-5	4-5	5	12-4	10-5	10	4-10	2-3	10-5	12-3
さいたま市岩槻文化公園	10					11				11					11	
さいたま市見沼自然公園											10				10	
さいたま市三室地区					6		2									
さいたま市秋が瀬公園								38					43		33	
さいたま市民家園周辺	5					40				7		13				
羽生市水郷公園						100										
加須市加須はなさき公園						30										
加須市渡良瀬遊水地	35					73				5					4	
滑川町武蔵丘陵森林公園	44			5		19	50			94	38		60			6
寄居町玉淀河原	20						20									
狭山市智光山公園							33			83	17				17	
狭山市入間川						20	11			30	6				6	
熊谷市大麻生	31				19	39	14			23			13	9	10	19
戸田市彩湖					17	17									8	
幸手市宇和田公園						60										
坂戸市高麗川	20					20	20									
春日部市内牧公園										8			20		6	
所沢市狭山湖	6				9		38			50					6	
松伏町まつぶし緑の丘公園						43										
上尾市丸山公園	9						27			17	9					
深谷市仙元山公園							50			75	25					
長瀨町長瀨	33					33	67			17						
長瀨町宝登山						33	67									
東松山市物見山	20					30	30	33		40	10		40			20
北本市石戸宿	30				10	35	15			53	5		5	20		
本庄市坂東大橋	10					90										
嵐山町菅谷館・都幾川	27					10	45			17						
蓮田市黒浜沼	24					60	10			20						
茨城県平潟港						67									67	
群馬県小根山森林公園	50					100	50			100						50
東京都三宅島		100						40				40				
栃木県奥日光	75						50	50	50		63		100		13	
栃木県日光東照宮裏山	40					60	20		20	100					20	
長野県戸隠高原	100		67	55			82	67	100		64	80	64		55	
宮城県伊豆沼周辺	100					100										

2011年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉 研究部

日時：2011年9月19日

午前9時30分～11時05分

場所：さいたま市 大久保農耕地

天候：晴れ

ため、シギ・チドリ類が非常に少なかった
と思われます。

下の表は今までの秋の調査結果をまとめた
ものです。

※表の中の「タシギ属不明種」、「チドリ科
不明種」、「シギ科不明種」は、種数には入れ
ませんでした。 (石井 智)

午後は曇りになりましたが、午前中は高気
圧に覆われ真夏日となりました。3連休の最
後にもかかわらず、会員9名にご協力いた
だきました。ありがとうございます。

稲刈りもほとんど終わり、厳しい残暑が続
いたため、田んぼはほとんど乾いた状態
でした。そのような中、タシギがA区で4羽、B
区で3羽、合計7羽が観察されただけ
でした。また、ムナグロは昨年に続き観
察されず、タシギだけの確認は2004年
以来7年ぶりでした。はっきりしたことは
分かりませんが、9月に入ってからの連
日の猛暑や雨の少なさなどから、田ん
ぼが昨年と同じような状態だっ



秋のカウント結果 (大久保農耕地)

年	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
調査日	9/15	9/15	9/15	9/15	9/16	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/14	9/13	9/18	9/19	9/18	9/17	9/15	9/21	9/20	9/19
天候	晴	曇	晴	雨	雨	曇	曇	雨	雨	晴	雨	曇	晴	曇	曇	雨曇	晴	曇	晴	雨曇	晴	曇	曇	曇	晴
1 タマシギ					1																	2			
2 コチドリ		26						11	1		13														
3 シロチドリ				2	2																				
4 ムナグロ	179	112	4	52	142	10	24	74	21	3	203	155	105				110			13	8	70	8		
5 ケリ		2																							
6 キョウジョシギ					2																				
7 トウネン					2		2																		
8 ヒバリシギ		1																							
9 エリマキシギ											1	2													
10 アオアシシギ																					5				
11 クサシギ	1	1			1			1	1														3		
12 タカブシギ	36	15		12	17						4					3			6	1	7				
13 イソシギ					5		1				1												1		
14 ホウロクシギ														1											
15 コシャクシギ												8													
16 タシギ	29	72	38	20	185		80	19	11	1	51	24	6			17	3	1	60	23	15	4	9	5	7
17 オオジシギ										2					1							2			
タシギ属	2	1			8			2			1	2	1			3				2	2			1	
18 アカヒレアシシギ					9																				
チドリ類											1														
シギ類														1					1	1		1			
合計	247	230	42	86	374	10	107	107	33	7	275	189	114	1	0	23	113	2	67	44	40	75	17	6	7

2011年サシバ観察報告

—地元の人も参加しました—

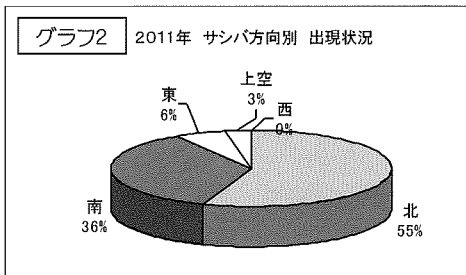
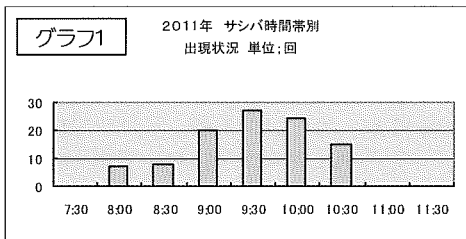
田中幸男(蓮田市)

2008年にはじまった平地(さいたま市岩槻区の田んぼの農道)での「サシバ観察」も4年目となり、今年は8月26日から10月7日のうち33日間観察を行いました。観察者を代表して概況について報告します。

- ◎ 観察されたサシバ総数は153羽(10年117羽、09年291羽、08年438羽)、1日平均の観察数4.6羽(10年3.8羽、09年11.2羽、08年17.5羽)と、昨年減少したものが若干増えた状況でした。
- ◎ 出現時間帯は9:30-9:59をピークに9:00-9:29、10:00-10:29、10:30-10:59と続き、4年間の傾向もほぼ同じでした(参照:グラフ1)。
- ◎ 観察を始めた08年は周辺の林から飛立つ、あるいは林に入る「林絡み」のサシバの観察は57回もありましたが、年々少なくなり今年は7回しかありませんでした。その理由のひとつに、今年は河畔の林が大規模に伐採されたことがあると思われます。サシバのほとんどが観察地や観察地付近の上空を通過していく傾向は昨年と同じでした。
- ◎ 今年の傾向も同じでしたが、4年間の集約でもサシバのほとんどが北方向(64%)から飛来し、ほとんどが西(30%)または南(20%)へ飛んでいっておりました(参照:グラフ2)。

観察は常駐メンバー3人と日本野鳥の会埼玉の方々、そして今年は蓮田市環境学習館BW参加者や黒浜沼周辺の自然を大切にす会の地元の方の参加・協力もあり、延べ149人(平均4.5人/日)での観察となりました。

毎月黒浜沼周辺で行われている環境学習館BWでもサシバなどタカの仲間を観察することがよくあります。また、観察地は散歩・ウォーキングをする方も多く、観察中に立寄られた方にはサシバのことを説明しておりますが、その人たちから、「今日は飛んでいますか」「向こうでサシバ見たよ」などと声をかけてもらうこともしばしばでした。このことは、

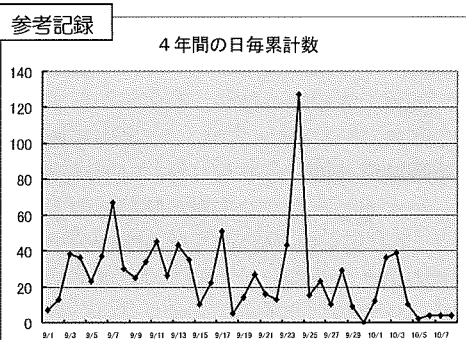


自分たちが住んでいる所はタカの仲間が多く飛来して来るところなんだ、という環境への関心が深まっている表れかと思いました。みなさん方はタカが大空に舞う姿や小さいながらも鷹柱となって上昇してゆく姿を見て歓声をあげておりました。

当地では、サシバ以外にハチクマ、ハヤブサ、チョウゲンボウなども飛来し、楽しませてくれました。

また1ヶ月同じ場所で観察を続けていると相当数のショウドウトバメが長期間渡り続けることなど、興味深い観察もいろいろできました。

最後になりましたが、このような報告ができるのもみなさんの参加・ご協力があったからであり、御礼申し上げます。





野鳥情報

深谷市本田白鳥飛来地 ◇8月6日、クサシギ2羽、イソシギ約5羽、マガモ数羽、サシバ1羽。8月20日、キアシシギ1羽、トウネン1羽、クサシギ1羽、イソシギ10羽十、マガモ♀エクリプス10羽♀1羽。9月10日、クサシギ1羽、イソシギ2羽、オオタカ成鳥1羽。9月17日、オジロトウネン2羽、クサシギ3羽、イソシギ約10羽。9月24日、イソシギ2羽、オオタカ成鳥1羽、コサメビタキ1羽。8月～9月の間、荒川の増水が続き、当地では例年に比べてシギ・チドリが少なめだった（鈴木敬）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇9月1日、電線に止まっていたムクドリ50羽士の中にコムクドリが2羽いた。ハイタカが輪をかいて高く舞い上がった（長嶋宏之）。

羽生市上新郷の休耕田 ◇9月2日～9月30日、ムナグロ2羽～30羽十、圧倒的に幼鳥が多い。ケリ1羽、トウネン1羽～10羽十、ヒバリシギ1羽～6羽、オジロトウネン1羽、ウズラシギ1羽～2羽、エリマキシギ1羽～10羽、コアオアシシギ1羽～4羽、アオアシシギ2羽～10羽、オグロシギ1羽～4羽。他にコチドリ、タカブシギ、クサシギ、タシギなど（小林洋一・小林みどり、他）。9月6日、セイタカシギ成鳥2羽、幼鳥2羽（松井昭吾、小林みどり）。

鴻巣市大間1丁目 ◇9月3日、同所で台風12号がもたらした強風の中、我が家の上空を、今日もショウドウツバメがちらほら渡ってゆく。午後3時半ごろ、遠くの電線に何か5～6羽飛んできたので、あわてて双眼鏡を構え、かろうじてコムクドリ♂1羽と確認。すぐ飛ばれてしまって、1羽だけしか確認できなかったが、鳴き声からすると全部コムクドリだったようだ（榎本秀和）。

蓮田市西城沼公園 ◇9月3日、午前6時頃、サシバ1羽とハチクマ1羽が屋敷林の上空をカラスに追われて旋回。午前9時30分頃、40羽のムクドリの中に1羽のコムクドリが混じって電線に止まっていた。9月5日、

1羽のツミ成鳥♀が屋敷林の一本杉でポーズを決めていた。ショウドウツバメ30羽士の群れに続いて15羽の群れが舞った。9月6日、オシドリが1羽、嘴を翼の下に入れて休んでいた。ここでの初認（長嶋宏之）。

春日部市倉常 ◇9月6日午前11時30分頃～12時50分頃、休耕田で、コチドリ若鳥2羽、クサシギ1羽、イソシギ2羽、アオアシシギ3羽、ショウドウツバメ多数、アオサギ1羽、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギ若鳥1羽。特にアマサギの個体数が多かった。他にハシブトガラス、ムクドリ、キジバト、スズメ。クサシギとイソシギは両種共に体上面は黒っぽくて下面は白く、尾を上下に振るところも似ているので遠目にはクサシギをイソシギと誤認しやすいと思える。しかし、両種一緒に並ぶと、イソシギの尾の上下動はクサシギより早い。クサシギはゆっくり。また、肩の白い食い込みはイソシギの方が明瞭である（石川敏男）。

蓮田市関山 ◇9月7日午前4時30分、アオバズクの声聞いた。午後6時30分、TVのアンテナに止まって鳴いていた（細田敦史）。

さいたま市見沼区蓮沼 ◇9月7日、ムクドリの群れの中にコムクドリ…と思ったら逆で、ムクドリ数羽を含むコムクドリ70羽十の群れが電線に並ぶ（小林みどり）。

鴻巣市鴻巣 北緯36.0676 東経139.5306
◇9月10日午前5時半、我が家の北北東300m旧荒川近くにコムクドリ100羽士飛来し、電線にとまったり、木の実を食べていた。その後北方へ飛散した（竹山峯義）。

さいたま市見沼区加田屋 ◇9月12日、川の岸辺にクサシギ1羽（小林みどり）。

さいたま市岩槻区浮谷 北緯35.9314 東経139.7145 ◇9月17日、電信柱にコムクドリ50羽士の群れ。毎日ほぼ同じ時間にやってくる（松原卓雄）。

表紙の写真

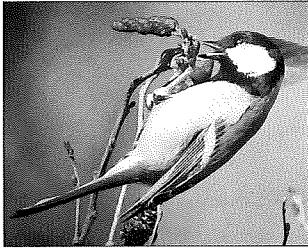
タカ目タカ科ノスリ属ケアシノスリ

撮影：2011年2月22日

森田文三郎(本庄市)



行事案内



シジウカラ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。遠慮なく見て、楽しみましょう。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：12月3日(土)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。

または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:21→春日部 7:36
→栗橋 7:56→柳生 8:06 着。または JR 宇都宮線浦和 6:55→大宮 7:03→栗橋 7:38 着で、東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：内田、橋口、玉井、田邊、中里、植平、進士、茂木、山田(東)、佐藤、佐野、野口(修)

見どころ：谷中ブロックの浮島上空を飛ぶチュウヒ、顔を見せてくれるかミサゴ、ノスリ、トビ。谷中湖では 100 羽を超えるヨシガモの群れ。道の左右にオオジュリン、バニマシコなど冬の小鳥たち。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：12月4日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口から北里メディカルセンター病院行きバス8:31発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、浅見、岡安、大坂、内藤、立岩、永野、山野、飛田、吉原(早)、相原(修)、相原(友)、関口、長谷川

見どころ：木漏れ日の中や陽だまりを歩く石

戸宿です。雑木林、朝陽さす草原では冬の小鳥たちを、高尾の池ではカモの仲間を探しましょう。河川敷では高く舞うタカ類が期待できます。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：12月4日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：伊藤(芳)、手塚、若林、倉林、赤堀、須崎、藤田(敏)、野口(修)、大井

見どころ：冬の当探鳥会の名物になりつつある(?)猛禽たちに期待します。 去年は 5～6 種類のタカたちが出てくれ、参加者の方々に喜んでいただきました。鳥見には最高の季節です。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：12月4日(日)

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅改札口。または午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部 8:22→久喜 8:35
→花崎 8:42 着。JR 宇都宮線大宮 7:58→久喜 8:23 で東武伊勢崎線乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：長嶋、中里、内田、栗原、植平、茂木、竹山

見どころ：まだあまり慣れない方も大歓迎！
図鑑のフィールドマークを確認しながら、ヒドリガモの雌雄、ホオジロとカシラダカ、カワラヒワとシメなど、身近な野鳥を丁寧に楽しみましょう。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：12月10日(土)

集合：午前9時30分、西武狭山湖線西武球場前駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋(優)、持丸、小林(ま)、水谷

交通：所沢9:09→西所沢9:12着、狭山線に乗り換え9:14発→西武球場前9:20着。

見どころ：12月の狭山湖で何が起こる?! 今年は何んな珍客がシーズンの幕開けを飾ってくれるのでしょうか？ 湖畔の紅葉も楽しめますよ。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月11日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:51発。

担当：千島、森本、大澤、倉崎、栗原、新井(巖)、鶯飼、飛田、榎本(秀)

見どころ：土手を歩くとジョウビタキ、アオジ、カシラダカ。河川敷でベニマシコを探していると、空にはオオタカ、ノスリが飛んでいることも。池には今年もマヒワが水のみに来てくれるといいですね。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：12月11日(日)

集合：午前8時35分、東武野田線岩槻駅前。
集合後バスで現地へ。または午前9時、文化公園駐車場(国道16号側)。
交通：東武野田線大宮8:19発、または春日部8:17発。

担当：長野、玉井、田中、石川、吉安、長嶋、

榎本(建)、野村(弘)、小林(善)

見どころ：ゆっくりと鳥見を楽しみたい方には最適です。今年2月にはアリスイをじっくりと観察できました。今回はどんな鳥が楽しませてくれるのでしょうか。トイレ完備の安心探鳥地です。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：12月14日(水)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。
または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21→春日部7:36→栗橋7:56→柳生8:06着。またはJR宇都宮線大宮7:03→栗橋7:38着で、東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：玉井、大坂、楠見、田中、植平、松村、藤澤

見どころ：渡良瀬のベストシーズンが始まります。谷中湖には多数のカイツブリやカモたちの群れ、浮島やアシ原の上を飛ぶチュウヒ、草原のベニマシコやオオジュリンなど多彩な冬の小鳥たちを期待しています。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：12月17日(土)

集合：午前9時30分、森林公園南口前。
交通：東武東上線森林公園駅から、立正大学行き9:10発バスで「滑川中学」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。

費用：入園料400円(子供80円)、65歳以上200円(年齢を証明できるものが必要)。

担当：中村(豊)、岡安、佐久間、大坂、内藤、藤掛、藤澤、宇野澤

見どころ：冬のシーズン開幕です。見上げればカラ類の混群が梢を行き交い、疎林の下ではアオジやビンズイの姿、ルリビタキも出てくるかな。沼には綺麗になったカモ類。陽だまりの道を歩きます。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：12月17日（土）午後3時～4時
会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：12月18日（日）
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：楠見、青木、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、倉林、増田、宇野澤、須崎、船木、畠山、柴野
見どころ：三室の探鳥会に出かけないと年越しが出来ないと、毎年多くの仲間がやって来ます。色鮮やかなカモやジョウビタキ、アオジなどが打ち揃って出迎えてくれます。お友達を誘って、師走の見沼たんぼへどうぞ。

年末講演会

期日：12月23日（金・祝）
会場：浦和コミュニティーセンター10階第13集会室。
交通：浦和駅東口下車。駅前PARCOの10階。
参加費：100円（中学生以下無料）
開場：午後1時
第1部：午後1時30分～2時45分
「写真で見るこの1年」、他。
第2部：午後3時00分～4時30分
講演「野鳥観察の楽しみ方」
講師 叶内拓哉氏（野鳥写真家）
長年野鳥を撮り続け、数多くの著作も発表されている氏は、どのように野鳥の世界に興味を抱き、どのように写真家としての活動をされてこられたのでしょうか。野鳥の世界にまつわる話をさせていただきます。
懇親会：氏を囲んで、会費4,000円。申し込みは12月19日までに、はがきで橋口長和宛
又はメール shirakoboto@npo.go.jp で。

その他：第1部の写真・ビデオを募集します。
あなたの傑作を、ビデオの場合は5分以内に編集して、橋口宛にお送りください。

幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：12月25日（日）
集合：午前9時15分、宇和田公園駐車場。
交通：東武伊勢崎線東武動物公園東口から境車庫行き8:45発バスにて「上宇和田」下車、北方向に徒歩約5分。
担当：中里、栗原、植平、佐野、佐藤、竹山
見どころ：今年も押し詰まり、1年の締めくくりの探鳥会です。公園とその周辺で冬鳥たちの出会いを楽しみましょう。そして1年間楽しませてくれた鳥たちに感謝の気持ちを送りましょう。

千葉県・銚子港探鳥会（要予約）

期日：平成24年1月28日（土）～29日（日）
集合：午前7時50分、JR大宮駅西口、ソニックシティー大ホール前広場。
交通：往復とも貸し切りバスを利用。
帰着：JR大宮駅西口、29日午後5時ころ。
費用：22,000円の予定（1泊2食付宿泊費、29日昼食代、バス代、高速料金、保険料を含む）過不足の場合は当日精算。
定員：25名（埼玉会員限定、先着順、最少催行人数16名）。
申込み：往復はがきに、住所、氏名、年齢（保険加入が必要）、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、橋口長和
までお送りください。12月1日以降の消印を有効受付とします。
担当：橋口、榎本（秀）、玉井、田邊
見どころ：今シーズンの海鳥探鳥会は、茨城県大竹海岸→波崎港→銚子港→宿泊→犬吠埼をまわり、カモメ類、海ガモ類を探します。
宿泊：男女別の相部屋です。個室の用意は出来ません。



行事報告

8月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：11名

新井浩、江浪功、榎本秀和、海老原教子、大坂幸男、佐久間博文、柴野耕一郎、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫

8月21日(日) さいたま市 三室地区

雨のため中止。(楠見邦博)

9月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加：31名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ トビ オオタカ ノスリ ハヤブサ キジ イソシギ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ シジュウカラ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) (番外：ドバト) 風があり、雲も少し多かったのですが、なんとか暑さをしのぎながら明戸堰まで歩いた。モズは期待どおり高鳴きを聞かせてくれた。ショウドウツバメには会えなかったが、それを補ってくれたのは猛禽類。思いがけず多種見られ、特に、電柱に止まっていたオオタカ成鳥は、みんなでジックリ見ることができた。明戸堰では、水量が多かったためか、カモ類が全く居なかったが、近年少なくなったイソシギが姿を見せてくれた。なお、当日確認種に入れていたチョウゲンボウだが、後方に居てハヤブサを観察したリーダーなどに後で話を聞いた結果、同一個体であって、ハヤブサとするのが妥当との結論に達して記録を抹消させていただいた。(森本國夫)

9月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：8名

新井浩、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司、増尾隆

9月18日(日) さいたま市 三室地区

参加：39名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カル

ガモ オオタカ イソシギ キジバト コゲラ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (18種) (番外：ドバト) 残暑がきびしかったが、短縮したコースと時間で全員が満足する。青空を飛ぶアオサギやダイサギがくつきりみえ、斜面林の上をオオタカが飛翔。モズが鳴き、イソシギが水面低く通り過ぎた。冷房の効いた博物館での鳥合わせもゆっくりだった。(楠見邦博)

9月18日(日) 坂戸市 高麗川

参加：26名 天気：晴

カワウ ダイサギ アオサギ オシドリ カルガモ キジバト カワセミ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (19種) (番外：ドバト、ガビチョウ) 期待したサシバは飛んでくれなかったが、オシドリ♂のエクリプスを見ることができた。ここでのオシドリは久しぶり。モズはあちこちで見られたものの、スタートから鳥が少なく、確認種19は過去65回の探鳥会での最少記録となった。(山口芳邦)

9月18~19日(日~月、休) 長野県 白樺峠

参加：25名 天気：18=晴、19=晴後曇

ミサゴ ハチクマ トビ オオタカ ハイタカ ツミ ノスリ サシバ クマタカ イヌワシ ハヤブサ チゴハヤブサ キジバト アオバト ハリオアマツバメ ヒメアマツバメ アマツバメ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワガラス ウグイス サメビタキ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ カケス ハシブトガラス (31種) 行きの新幹線の窓から見えた富士山が、白樺峠での2日間の興奮と歓喜の連続を予言しているように見えた。たか見台から見える谷間からタカ達が次々と飛び立ち、目の前でタカ柱を作り、頭上を飛ぶ姿に歓声が上がった。頭上を高く飛ぶ場合もあったが、低く飛んだときは、ハチクマの尾羽の黒い帯や、オス・メスの区別、個々の羽色の違い等参加者でワイワイと楽しんだ。また、クマタカが、上空を飛んだときは、太陽の光で羽が透けて見えて翼や尾の黒線がはっきりときれいに見られた。これ程綺麗なクマタカは見た事が無い。スマートでブー

メランのチゴハヤブサが頭上を飛んだ時も歓声が上がった。ハイタカ属が出て来た時は、みんなで識別の討論会になった。2日目の主役は、アマツバメ類とイヌワシ。この日のタカ達は米粒位にしか見えない程の高い所を渡って行った。その中でアマツバメ達が頻繁に目の前を飛んでくれた。特に、ハリオアマツバメは私達の近くを「ビュン」と音を残して飛び去った。中には、尾羽の針状を見る事が出来た人もいた。アマツバメを追いかけている時、遠くに黒いワシを発見。雄大に飛ぶ姿に「イヌワシが出た～」と拍手喝采。タカが飛ばないときは、クジャクチョウ、キベリタテハ等のチョウ達が私達を楽しませてくれた。夜の親睦会では、マツタケがたくさん入ったきのこ鍋に歓声上がる。参加者の心に、それぞれの場面が大切な思い出になって残ってくれると思う。昨年のリベンジが出来たと思う。最後に、白樺峠に「ありがとう」と言いたい。(入山 博)

9月19日(月、休) シギ・チドリ類調査
ボランティア：9名

相原修一、相原友江、青木正俊、浅見徹、石井智、海老原美夫、小貫とみ子、小貫正徳、村上政直

9月19日(月、休) 松伏町 松伏記念公園
参加：22名 天気：晴

ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ アオサギ カルガモ トビ チョウゲンボウ バンクサシギ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) (番外：ドバト) 朝から暑く、これでは冬鳥はまだ来ていないのではと心配しながらのスタート。公園の池の水鳥はカルガモとバンだけ、農耕地に出ても鳥の影が薄い。それでも、チュウサギとアマサギの混群がじっくり観察出来、チョウゲンボウの狩とクサシギの出現に救われ、中川では真っ赤な彼岸花を背景にダイサギ、アオサギ、ゴイサギ3羽が揃い、ツバメにお別れをし、モズの高鳴きに励まされつつ無事着地点に。なぜかコサギが出ず、冬鳥も見つからなかったのが少し残念だった。(田邊八州雄)

10月2日(日) さいたま市 民家園周辺
参加：56名 天気：曇

カイツブリ ハジロカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ ヒドリガモ チュウヒ オオタカ バン オオバン アオアシシギ タシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) (番外：ドバト) カレンダーが10月に替わり、秋らしい心地よい気温となった。今回は一部通行可能となった芝川第一調節池周辺をまわった。調節池内の木にチュウヒやオオタカ(若)。葦原周辺にはノビタキ。水面には渡ってきたばかりであろうカモ達。夏鳥のツバメ、オオヨシキリも現れてバラエティに富んだ探鳥会となった。(須崎 聡)

10月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア：9名

相原修一、新井浩、海老原教子、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫

10月16日(日) さいたま市 三室地区
参加：60名 天気：曇後晴

カイツブリ アオサギ カルガモ コガモ ハシビロガモ オオタカ キジ バン イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) (番外：ドバト) 畑にはコスモスが咲き乱れ、梢ではモズの高鳴きがする。季節はもう秋。ところが、暑い。10月中旬を過ぎて参加者もそれなりの格好をしているので、ますます暑い。電線のカラスも口を開けて苦しそうだ。そんな中の探鳥会。三室名物カワセミは参加者全員が堪能。ホオジロ・モズもいたところにいる。気温が30度近くまで上がり、後半は足を早めて探鳥会を終了させた。終わってみれば26種。キセキレイやコガモも見ることが出来、満足のいく探鳥会であった。(青木正俊)

10月22日(土) 加須市 渡良瀬遊水地
雨のため中止。(内田孝男)



●「渡良瀬遊水地のラムサール条約湿地登録に関する要望書」に賛同

渡良瀬遊水地をラムサール条約湿地に登録しようとする活動は、精力的に進められています。今回さらに推し進めるための要望書を提出することになり、当会も賛同団体となることを10月16日の役員会で決議しました。

10月18日付けで、ラムサール・ネットワーク日本、渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会、日本野鳥の会栃木など7団体が環境大臣などに宛て、「登録は治水事業の妨げにはならない。登録に尽力を願う」との要望書を提出し、賛同団体として当会など36団体、賛同個人として260名が名前を連ねました。

●関東ブロック協議会に出席

10月1日(土)～2日(日)の2日間、神奈川県葉山町で開催された第35回関東ブロック協議会(神奈川県支部担当)に、当会から藤掛保司代表、橋口長和普及部長、青木正俊・長野誠治両幹事の4名が参加しました。

1日目の会議は各団体の近況報告(当会か



(撮影：藤掛保司)

らは、シラコバト合同調査の最終結果など)、鳥インフルエンザ・全国の探鳥会・洋上発電計画などについての報告、会員減少対策に関する話し合いなど、2日目は、湘南国際村めぐりの森の早朝探鳥会が行われました。

●会員の普及活動

タウン誌『月刊武州路』から楠見邦博監事に編集長対談の申し込みがあり、10月4日(火)に対談。「見沼たんぼは野鳥の宝庫」と題して、同誌11月号に掲載されました。

●会員数は

11月1日現在1,964人。

活動と予定

●10月の活動

10月8日(土) 11月号校正(海老原美夫・大坂幸男・小林みどり・志村佐治・長嶋宏之・藤掛保司・山田義郎)。

10月15日(土) 見沼たんぼネットワーク主催「私の好きな見沼たんぼ2011」写真コンクール表彰式に出席(浅見徹)。

10月16日(日) 役員会(司会：山口芳邦、各部の報告・要望書に対する賛同・行事予定など)。

10月17日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け11月号を送付(倉林宗太郎)。

●12月の予定

12月3日(土) 編集部・普及部・研究部会。

12月10日(土) 1月号校正(午後4時から)。

12月17日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

12月18日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

久しぶりに1人で探鳥旅行にでかけた。場所は宮古島。小さな島を車で300km走った。気儘に、いい加減に過ごした4日間。たまには1人もいいものだ。(山口)

しらこぼと 2011年12月号(第332号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル

日本野鳥の会 会員室 TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635 gyomu@wbsj.org

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社